

税と暮らし

浦添市立浦添中学校 3年 糸数 丞太郎

母は買ってくれなかった。小学校二年生のあの日、大きなジンベエザメのぬいぐるみを買いたいと言った僕に「税込みでいくらになるか計算できたら買っても良いよ」と母は言った。僕が計算できるはずがないと思って、「買えない」とは言わず、消費税計算の話を持ち掛けたのだ。数学の先生だった祖父と生活していたので、算数は得意だった。そうは言っても、当時の僕には定価九千七百円と八パーセントという消費税率の計算はそう簡単ではなかった。しかし僕はぬいぐるみ欲しさのあまりに店内で時間をかけて税込み価格を計算した。今でも母は笑いながら「計算できたのに買わないでごめんね。」と言う。この時から消費税は身近な存在だ。

数学の夏休みの宿題で僕は友達と一緒に浦添市の税金について調べた。僕は消費税しか知らなかったの、隣の市で議員をしているおばから税金について教えてもらった。例えば、僕が通っていた小学校は建物が古くなったので新しく建て直したが、誰が建築会社にお金を払ったのか。ゆいレールを作ったのは誰なのか。学校から渡されている I Pad は誰が買ってくれたのか。など多くの身近なモノは税金と結びついているということが分かった。市町村に入る税金は大きく分けて二つ。一つは使い道が決まっている収入で国や県から入ることが多い、もう一つは自治体が自由に使い方を決めることができるもので、主に市民から直接集めた税金である。市議会議員はこの税金の使い方を監視したり決定したりするそうだ。父の給与明細を見せてもらおうと、所得税と住民税という項目があった。こんな風に大人達が税金を払うことで自治体にお金が集まり、自治体はその集まったお金を僕達の生活の為に使う。

10月に出産予定のいとこが明石市に引っ越したいと言っていた。兵庫県明石市は子育て支援に力を入れているらしい。ホームページを見ると、他の市町村ではやっていないような特徴的な子育て支援がいろいろあるようだった。浦添市のホームページを見ると、やはり教育や子育て支援について力を入れていて僕たち子どものことを考えていることが分かる。また、浦添市は美術館があったり、立派な図書館があったり、芸術文化に触れる機会も多い。こんなふうに税金の使い道で、地域に特徴がでてくることが分かった。

そして、税金の使い方を知ることは、その自治体の政治家が何を大事にしているかが分かると思う。その政治家を選んでいるのは、選挙権のある大人たちだから、税金を納めることと同時に政治に興味を持つことも大事だと思う。今回、僕は税金について学んだおかげで政治にまで関心を持つことができた。同時に、政治に関心を持って「こんな浦添市にしたい」と思っても、税金が集まらなかったら何もできないことも知った。税金は、僕たちの夢や希望をかなえる大事なもののなのだ。